

福井県あわら市 (2024 年度選定)

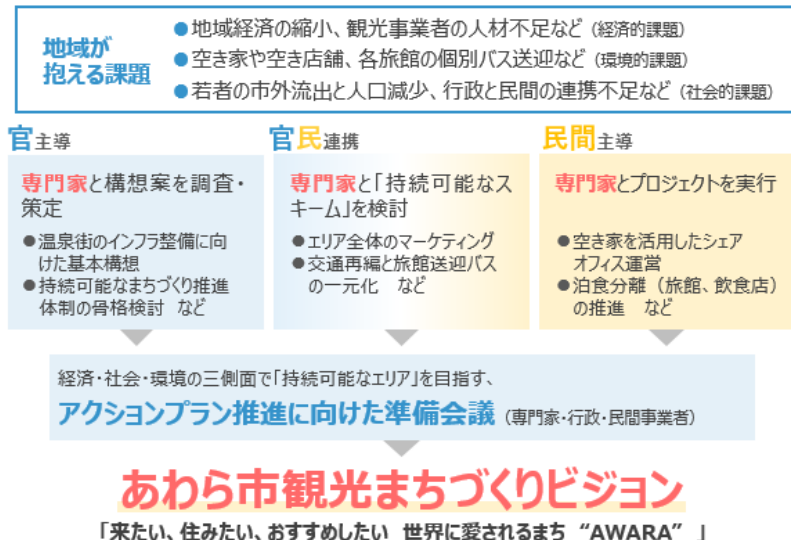
◆関連するゴール：



1 事業実施内容

観光事業者の人材不足や雇用のミスマッチ、人口減少による地域経済の縮小などの経済的課題や、空き家、空き店舗の増加などの環境的課題、また、若者の市外流出による活力不足や、行政と民間の連携不足などの社会的課題を解決するために、専門家とともに、あわら市観光まちづくりビジョンのミッション「来たい、住みたい、おすすめしたい、世界から愛されるまち“AWARA”」を目指すために、各アクションプランを具体化していく。

地方創生SDGs課題解決モデル都市 あわら市 (2024年)



【温泉街の観光拠点強化】（経済）

- ・ 地域価値を高める集積拠点や機能の決定
- ・ あわら温泉湯のまち広場を中心とするあわら温泉のランドスケープ再編と民間投資の促進

【地域連携による魅力創出】（経済・環境・社会）

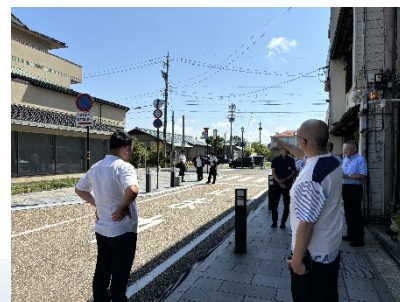
- ・ 空き物件の利活用
- ・ 農家や飲食店との連携による地域価値創出

【未来に続くまちづくり】（経済・環境・社会）

- ・ 環境に配慮した二次交通の検討（ゼロカーボンシティの推進）
- ・ 地消地産の促進
- ・ 若い世代の愛着を造成（住環境の満足度向上）

【観光まちづくりの推進体制整備】（経済・社会）

- ・ 持続可能な地域経営主体の組成
- ・ エリア全体でのマーケティング推進体制の構築



②事業費用

総額：19,995 千円

＜内訳＞観光まちづくり推進事業 15,000 千円

観光拠点施設 F/S 準備検討 4,995 千円

③事業成果

アクションプランの具体化

① 旅館送迎バスの共同化

あわら温泉の4旅館が、それぞれのリソースを活用し送迎バス共同化の実証実験を実施。課題を洗い出し、さらに実証実験を重ねながら、共同化を見据えた道路空間の再編整備に反映していく。

② あわら温泉湯のまち広場にて飲食事業試験運営

湯のまち広場内において、旅館事業者がカフェを試験的に運営。令和7年度予定の温泉街全体の社会実験において、さらに検証を行い、広場全体の魅力向上や滞在性向上のための飲食・物販機能のあり方を広場のハード整備計画に反映していく。

③ 空き物件の利活用

活用する空き物件の選定と、事業イメージ（地域の人たちや来街者の交流拠点、若い世代も気軽に宿泊できる簡易の宿泊施設など）の決定。令和7年度からは、具体的な事業計画、運営スキームを検討し、具体化していく。

④ 浴衣まち歩き促進事業

旅館と飲食店等との連携で、まち歩きを促進させるための実証実験を実施。令和7年度以降も運営スキームや方法をブラッシュアップしながら、回遊性向上のためのハード整備と連動させていく。（観光庁・地域観光新発見事業で備品等購入）

⑤ 観光拠点施設の基本方針検討

セントピアあわらを、地域の総湯として自分たちの暮らしをアップデートしていくための施設にしていくことを目指し、民間活力導入の事業可能性を調査するとともに、必要な機能を検討。

上記のアクションプランを進めながら、「あわら市観光まちづくりビジョンアクションプラン推進に向けた準備委員会」において、温泉街のランドスケープやエリア交通計画を取りまとめ、令和7年度の社会実験の実施・検証を経て、温泉街の魅力向上に向けたハード・ソフト事業を実施していく。

④今後の展開

令和7年度以降は、準備委員会の取りまとめをもとに、温泉街を中心とした社会実験（道路空間活用・飲食物販機能・まち歩き促進等）を実施し、検証を重ねながら、温泉街のハード整備内容にも反映させ、あわら温泉街のマスタープランを完成させる。それらのハード整備実施と連動させながら、官民連携で各アクションプランの具体化も進め、まちづくりの推進体制も構築していく。